

3週間後に証明される。弥彦バンクと相性がいい8人 覚えておいて損をするか？得をするか？



前回は僕が以前から感じている「小柄かつ華奢で、鋭い差し脚を持つ追い込み選手は弥彦で好走する理論」を披露しましたが、今回は当所成績から考察。バンクとの相性について絶対にあるから。番組に恵まれるし、気持ちも入る地元選手は除きます。S級S班もです。

まずは2011年の寛仁親王牌と2016年の記念を制している浅井康太。記念の方は先行で押し切っています。そして深谷知広は寛仁親王牌で優勝と準優勝。

さて、ここからが穴で狙える選手たち。FIで好走しても、GIは全然違うからと言えなけれ。東からいきます。

▼長島大介はここ2回のFIを連覇。6走して、4勝、2着1回。自在型ですが、このところのイメージは自力選手ですよね。

▼吉田拓矢はチャレンジ、A級、S級（FI）の3階級で完全優勝がある。こちらは自在な動きが身につけてきた。高松宮記念杯

は超悔しい準優勝だったもんな。

▼松谷秀幸は昨年と今年のFIで決勝に進出し、優勝も。ほぼ追い込み選手なのに、ここでは逃げて、まくつたりで連に絡んだ。

▼渡邉雄太はここ2回の記念で決勝に乗っていて、連対率は5割。2017年は逃げて、番手の諸橋愛に優勝をプレゼント。

▼野口裕史と久米康平は2回しかあつせんされていないから、たまたまなのかもしれないが、野口は6走して4勝、久米はFIでの優勝があつて、勝率は5割。

ちなみに脇本雄太のあつせんは寛仁親王牌のみの5回。決勝進出は2012年と2015年。7着と5着に終わったが、リオ五輪の前年にあたる2015年は赤坂前から逃げちゃいました。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント
好走するはずの選手 第2話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

